

～ジェットロ・タシケント事務所発「ウズベキスタン・ミニ情報」～  
第1回：スポーツ事情（2008/09）

ウズベキスタンから北京オリンピックには18種目に58選手が参加した。金メダル1人（レスリング男子・フリースタイル120キロ級）、銀メダル2人（柔道男子100キロ超級、レスリング男子・フリースタイル74キロ級）、銅メダル3人（柔道男子60キロ級、トランポリン女子、体操男子・平行棒）の6人がメダルを受賞した。新聞、テレビでも大きく取り上げられた。独立記念日（9月1日）の公式記念式典にも招かれ、数千人の観客に取り囲まれた会場の中央で手を振り万雷の拍手と歓声を浴びた。

オリンピック参加選手たちには国の権威向上、愛国心と誇りの啓発、青少年のスポーツ振興などへの貢献を称え、賞金等を授与する大統領決定が出された（2008年8月25日付）。主な内容は次の2点である。

金受賞者に対し20万ドル（うち10万ドルはスポンサー負担）、銀受賞者に対し10万ドル（うち5万ドルはスポンサー負担）、銅受賞者に対し5万ドル（うち2万5,000ドルはスポンサー負担）、その他の選手に対し2,000ドル（スポンサー負担）を、ウズベキスタン対外経済活動銀行の個人外貨口座に入金すること（免税）。国内の共和国、州、タシケント市は受賞者の居住・生活環境改善（住居新築、改築等）に1ヵ月以内に着手すること。

オリンピックでの活躍に見られるように当地でも格闘技の人気は高い。空手、柔道など日本の格闘技は良く知られている。柔道に良く似た「クラシュ」という地元に伝わる伝統的スポーツも一般的だ。

それとともに人気のスポーツはサッカーである。子供たちが空き地でボールを蹴り合う姿はごく普通で、欧州選手権などの大きな試合があると、タシケント市内の一部のカフェでは大スクリーンで放映している。ウズベキスタンはオリンピックでは目立った成績を残さなかったが、南アフリカ共和国で開催される2010年ワールドカップ最終予選に日本と同じA組に残り、今年10月15日には日本で、来年6月6日にはウズベキスタンで両国が対戦する。

テニス、水泳もポピュラーで、タシケント市内のテニスコートで利用料金は室内コート（1面当たり1時間）1万5,000スム、クレイコート1万スム、プール（1人1時間当たり）4,000～6,000スムである。

最近フィットネスクラブも人気が出始め、トレーニングジム、ヨガ、エアロビクスなどが利用でき、料金は1時間当たり平均6,000スムである。ホテルのフィットネスクラブも利用者が増えており、日本からの出張者もよく宿泊するあるホテルでの利用料金は1日20ドル、月200ドル（プール、サウナ、フィットネス機器）。同ホテルによると、2年ほど前までは利用者のほとんどが宿泊客であったが、現在は国際機関、大使館などの職員、ビジネスマンなど地元の利用客が多く利用するようになり、夏場は家族連れでにぎわったという。

1ドル=1,324.60（2008年9月9日付公定レート）